



vol.31

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

みなと報告

小松島港まつりにて協賛行事を開催

小松島市（徳島県）における夏の最大イベント「小松島港まつり」が7月20日（日）、21日（月）の2日間に渡り開催されました。各会場では、阿波踊りや浴衣コンテスト、徳島海上保安部巡視船や海上自衛隊護衛艦の展示、花火大会等たくさんの催しが実施される中、当事務所は7月20日に協賛行事として海面清掃兼油回収船「みずき」の“一般公開”及び、港湾業務艇「しまかぜ」による“みなと見学会”を実施いたしました。

「みずき」の一般公開については、珍しい船の構造や搭載している機器の見学をしていただくとともに、海上での漂流ゴミ収集状況や東日本大震災での活動状況などのパネル展示を行いました。普段見慣れない特殊な作業船ということもあって、家族連れの方など、多くの方に見学していただき、来場者は1日で約1000名にもなりました。

また、「しまかぜ」によるみなと見学会についても、計4便運行しましたが、受付開始20分ほどで全便満席となるほど好評で、たくさんの人々に普段経験する機会が無い“海から見る徳島小松島港”を楽しんでいただきました。ルート上には大きなガントリーカレーンや貨物船、海上自衛隊小松島航空基地でのヘリコプターの離着陸など多くの見所があり、絶えず見学者の歓声が聞こえていました。

今後も、地域の方に港の役割や事務所所管事業について理解していただき、身近に感じてもらえるよう、引き続き関連したイベントを実施していきたいと考えています。



↑「みずき」の一般公開



↑「しまかぜ」によるみなと見学会

INDEX▶

● みなと報告	1
小松島港まつりにて協賛行事を開催	
● みなとインフォメーション	2
徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の進捗状況報告	
● なるほどみなと講座	3
粘性土を有効利用する「プレミックス船工法」の紹介	
● みなと通信	4
第5回「みなとオアシス防災訓練」	

徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業の進捗状況報告

徳島小松島港沖洲(外)地区では、平成21年度からフェリー貨物の増加に伴う船舶の大型化に対応した新しいターミナルを徳島県と四国地方整備局で整備しています。

工事は平成26年5月からグラブ浚渫船を用いて水域施設(泊地、航路・泊地)の浚渫工事を実施しており、11月頃には完了する見込みです。

浚渫で発生した浚渫土はそのままでは強度が低く建設材料としては使用できないため、プレミックス船工法を用いて固化処理を行い、耐震強化岸壁の裏埋め材料として利用したほか、固化処理した土を岸壁背後に作った窪地(ポンド)に1~2日間仮置きし、強度発現後にダンプ運搬して高速道路整備計画場所の盛土材料としても利用しました。(「プレミックス船工法」は、なるほどみなと講座で紹介します)

浚渫完了後には岸壁のエプロン舗装工事を行う予定であり、平成27年3月の耐震強化岸壁(-8.5m)完成に向けて、鋭意整備を進めていく予定です。



↑ 泊地、航路・泊地浚渫状況（10月）



↑ 浚渫土砂改良・運搬状況（9月）

撫養港海岸整備事業の進捗状況報告

撫養港海岸整備事業は平成18年度から事業着手し、今後発生が危惧されている東南海・南海地震や、それに伴う津波による被害を防ぐため、地盤改良及び堤防改良工事等を行っています。

このうち、鳴門競艇場付近の工区では、平成26年4月上旬からスタンド等の解体作業を東側から開始しており、撤去後は順次、地盤の液状化を防ぐため、砂を圧入して密度を高めるSAVE-CP(静的締固め砂杭工法)を用いて施工を行っています。(「SAVE-CP」は、なるほどみなと講座で紹介します)

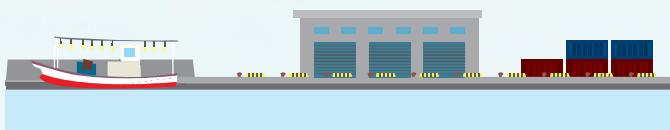
地盤改良後は防潮堤新設工事を行い、鳴門市が実施する新スタンド建設事業と歩調を合わせ平成28年春の競艇場オープンと同時にこの工区の工事が完了するよう、鋭意整備を進めています。



↑ 競艇場建物解体状況（7月）



↑ 地盤改良状況（10月）



こまほんのなるほど！ みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまほん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

一第31回ー

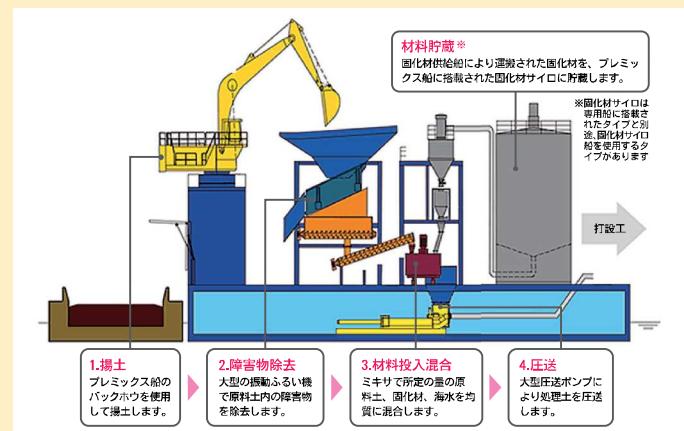
① 粘性土を有効利用する「プレミックス船工法」の紹介

「プレミックス船工法」とは高含水比で軟弱な浚渫土砂（粘性土）を、専用船（プレミックス船）のミキサー内でセメントなどの固化材と事前混合処理して固化処理土を作成し、圧送ポンプや配管などを用いて現場に圧送して打設する工法です。特徴としては、揚土から処理土の製造、打設までをプレミックス船のみで行うため比較的作業区域が狭い現場での施工が可能であること、処理能力が比較的高い（300m³/hr～400m³/hr）こと、および固化剤添加量などを変えることにより任意の強度や流動性をもった固化処理土の製造が可能な事などがあります。

徳島小松島港沖洲（外）地区の現場では、現場条件や費用、処理能力等を勘案して本工法を採用し、製造した固化処理土は耐震強化岸壁の裏埋め材料や高速道路整備計画場所の盛土材料として利用しました。



↑ プレミックス船



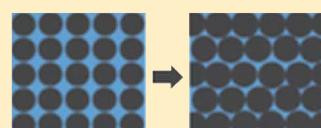
↑ プレミックス船工法の施工手順（工法協会HPより）

② 地盤の液状化を防止するSAVE-CP(セーブコンポーザー)【静的締固め砂杭工法】の紹介

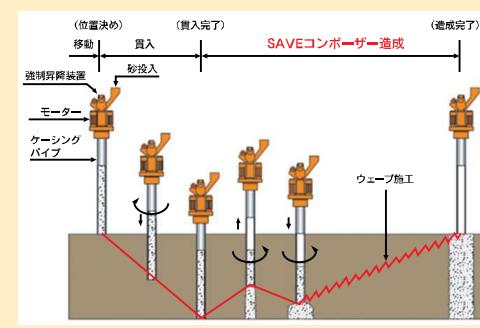
液状化とは、地震の震動によって地盤が軟化することをいいます。通常、地盤は土粒子がかみ合っていて、隙間には水がある状態でも強く建物などを支えています。ところが地震によって揺らされると土粒子のかみ合いが外れていき水に浮いた状態となり、建物が支えられなくなってしまいます。液状化を防ぐためには、「置換」「固結」「密度の増大」「排水」などの方法で対策を構じる必要があります。

撫養港海岸整備事業の鳴門競艇場付近では、周辺環境状況や費用、効果を勘案して「密度の増大」を行う対策が選択され、数多くある工法の中から静的締固め砂杭工法「SAVE-CP」を採用しました。

SAVE-CPは、振動で締め固めるのではなく、強制昇降装置を用いた回転圧入によって、地中に砂杭を造成して締固めを行います。そのため、無振動・低騒音のため周辺環境に与える影響を小さくすることができるという特徴をもっています。



↑ 地盤の密度増大イメージ



↑ SAVE-CPの施工手順



↑ SAVE-CPの施工機械

みなと通信

ご案内 第5回「みなとオアシス防災訓練」

平成26年11月30日(日)に小松島みなとオアシス(小松島みなと交流センターkocolo)において、第5回「みなとオアシス防災訓練」を開催する予定です。実施主体は「小松島みなとまちづくり協議会(※)」で、防災訓練には協議会メンバーの他、例年地元の自主防災会、地域住民、地元高校生など、50名程度の方々に参加いただいています。今年の訓練では、四国地方整備局指導による気球空撮システムを使用した情報収集訓練や、徳島県南海地震防災課による南海トラフ巨大地震の被害想定等の情報提供、小松島市市民安全課・消防課指導による災害図上訓練などを予定しています。小松島みなとオアシスの近くに住まれている方は、是非この機会にご参加ください。(※「小松島みなとまちづくり協議会」とは徳島小松島港本港地区を中心に、地域資源を活用した継続的な賑わいの創出活動や、人材発掘などの地域活性化策を推進するため平成22年10月に設立された組織です。)



昨年度の訓練風景

読者のみなさま

読者のみなさま、こんにちは、事務所長の佐野でございます。

地球温暖化の影響からか、初秋とは思えない暑さが続いておりますが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

さて、私こと、この小松島の地で勤務するのは初めてですが、夏のビッグイベント「小松島港まつり」の華やかさや人出の多さ、壮大な花火大会、お盆期間に来港する「飛鳥II」「ぱしふいっくびいなす」「にっぽん丸」といった、華麗なクルーズ船の数々に、カルチャーショック気味になっている状態です。かつての四国の東の玄関と言われた、みなとまち小松島の心意気を垣間見る感が致しました。

今回の「あわみなと通信」では、当事務所が進めている徳島小松島港沖洲(外)地区複合一貫輸送ターミナル整備事業や、撫養港海岸保全施設整備事業の概要を紹介させていただきました。現在、みなさま方のご協力・ご支援のもと、順調に推移しているところですが、今後とも、円滑かつ効率的に進めていく所存ですので、引き続き、よろしくお願ひ致します。

風
NAGI

小松島港湾・空港整備事務所長 佐野 正佳

出前講座の申し込み受付中!

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座(みまと学習、環境学習、防災学習)を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所
TEL

(0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>
よりお問い合わせください。